

第4回 偕楽園 景観検討部会 議事要旨

日時：令和3年12月9日（木）

場所：茨城県庁20階土木部会議室

委員：池邊このみ座長、町田誠委員（Web）、塚本こなみ委員（Web）、濱島正士委員

小柳武和委員、室田明里委員（Web）、飯石藍委員、湊正雄委員（Web）、永井博委員

行政関係者：茨城県都市整備課（事務局）、茨城県観光物産課、水戸市公園緑地課、水戸市歴史文化財課

議事：

1 審議事項・・・資料1

- ・ 重点ポイント、重点シーケンス、そのほかの取り組み

2 報告事項・・・資料2

- ・ これまでの景観検討部会での主な意見の反映

議事要旨：

1 審議事項（資料1）

□ ガイドライン上の規制やルール

仮設工作物等の意匠や配置について定めた色彩等の基準に、「努力規定」と書いてある。仮に公有地だけと言いますか、公園の中に限定されるならば、民間の事業者が置くものにしても、許認可のような行政処分に関わる形のできる。努力規定にとどめないで、もう少し強く強制力を持った形でやることができないだろうか。

同様にゾーンA・Bと書いてあるエリアがもう少し範囲が明確に分かれば良い。

Aゾーンのうち特に偕楽園本園、桜山などについては、努力目標や規制の誘導をするよりは、公園管理者自らの行うところである。規定としてもう少しきちんと行った方が良いのではないか。

景観への配慮が不足している事例で、梅まつりの時の仮設事務所は非常に違和感がある。これを実行委員会などで、改善しないのかどうか。

大和亭を撤去すると聞いており、そういう中で、歴史的景観に馴染むように配置を検討するのは無駄ではないだろうか。

偕楽園のトーンの中に、子供っぽいパステルっぽい色が入ると偕楽園全体の格式高いトーンがちょっと揺らいでしまうのではないか。Aの部分がBのエリアにも染み出てくる方がよいのではないか。

県の場合も水戸市のルールと同じもので判断することを相互ちゃんと協議していくことを項目として入れていくと良い。

拡張部に大きな建物ができることによって、水戸市の周りのマンションの色が、より偕楽園のあるまちとして全体をキレイにしていこう、という機運がでてくるくらいものにしていく。それくらいものにしていかないと、だめである。水戸市との景観協議が今後必要だと思う。園道や車で来る道路等も含めて、今後検討をしていただきたいと思う。

基本的に Park-PFI の 2 つの建物については審議ができる。しかし、その周囲に余計なものが 1 つできると、その周囲に飲食店ができる可能性もある。その時は景観アドバイザーの力で、同じようなトーンで揃えていく。全体の町並みとして、偕楽園の雰囲気より高めるようなものにしていく必要がある。水戸市都市計画課の景観審議会の先生方や、アドバイザーの方をお願いしたいと思っている。

歴史文化の専門家の意見を聞くというのは大賛成だが、鈴木先生がこの委員会に入っていないのが最初からおかしいと思っている。是非機会があれば、入っていただくべきだと思う。

自然素材の工作物→自然風合の工作物への文言変更

自然素材でなくとも耐久性に優れ、景観を阻害しない工作物も増えている。目的はあくまで他景観との調和であり、もちろん創園時にない素材の利用や SDGs には配慮すべきため石油素材を強く推奨するわけではないが、今後素材指定が影響しないようにしたい

□ 石張園路

見晴亭前の写真に白い石が敷かれており、好文亭まで敷かれる予定と聞いている。偕楽園の景観が、非常に阻害されるのではないかと思った。見晴亭の従業員に聞いてみたら、賛否両論だと言っていた。もう少し偕楽園を配慮した景観にしてもらいたい。

どこでもバリアフリーだからといって、舗装するのはおかしな考え方だと思う。あとは、園路の石張りの色。文化財があるところは、素材の見本での確認ではなく、現地の太陽光の下で大きさも含めて、私が責任を持っている場所では確認している。今園路に使っている石張りは、机の上で見ると様にできるものだと思う。しかし、太陽光の下でこれだけの面積に張られると、かなり白々くなっている。急に近代的な広場ができたように感じる。園路の石張りの色について、今後施工する部分については検討してほしい。

大勢の方が利用しやすい様に、便利にしていくのが都市公園である。文化財は、便利・不便で整備すべきではない。文化財として作られた時の空気感や狙いを保存すべきである。

バリアフリーのことしか考えずに、整備したことになってしまう。当時ない素材を使う時には、かなりの注意が必要である。車いすの場合は、横は通らないが、車いす同士ですれ違いができる幅が確保されていれば良い。要するに、試掘して下に何もなければ、上を整備して良い、という理論は、非常におかしな話である。今後、設計でどんどん広がっていき、内部の方までいくようであれば、一回止めて検討していただきたい。もし、今年度の工事範囲となっても、まだ未施工であれば止めて面積を減らす。あるいは、素材を変えることが必要だと考える。

□ ナイトスケープ（夜間照明）

水戸市が噴水を千波湖にやって、青や赤のライトアップを見て、偕楽園から見たらえらいことになるなど感じた。最近はやらないので、良かったと思う。

夜間利用を考えると、照明が必要だと思う。色々な施設展開が行われると、それについての景観は非常に大切だと思う。夜間の景観、ナイトスケープについても今後、議論をする余地を設けてほしい。

夜間の活用を推進するのであれば、照度や照明色・点滅頻度についての追記が必要
夜間点灯などの設置物以外に、チームラボ・竹灯籠・水夫行燈などの設置物ではないソフト事業になる場合もあるため、記載については指定だけではなくそれぞれの相談可能性を残しておきたい

□ 梅林の計画

梅・杉も、大事な景観の役割を担っている。梅が非常に衰弱しており、美しくない景観になっている。特に梅に関しては更新計画と健全に育てるという項目も入れて、具体的な方法は一度今ある梅の配置図を作ってサイズも入れる。このままでは衰退していくと私は推測している。梅林・梅園の計画も入れ込んで頂きたいと思っている。

梅が街路樹のような貧弱なものも植えられている。梅は桜に比べると樹形が命で、樹形が美しくないとならう。場合によっては成木で持って来て更新しないと、現状として見栄えのする所が少なすぎるし、かなり樹齢が重なっているのである程度成木で補植しないと難しいかも知れない。幼樹で補植するのでは梅園としては持たないかもしれない。どこから持って来るかは遺伝子とかもあるので周辺のということになると思うが。

六銘木を際立たせる空間整備とあるが、囲いが梅の木より目立ってしまっている。素材についても考えてほしい。竹とかでやると5・6年しか持ちません。他の構造物でやろうとすると囲いをする事によって根茎を痛める場合もあり梅の木が衰弱してしまうことが他の所でもあるので、検討して頂きたい。

梅の育成を前提とした計画についての追記が必要

今見る人に少し寄りすぎている印象、植生への生育・配慮のボリュームを増したい。
徒長枝調整も必要ではないか

□ 吐玉泉

吐玉泉について集水マスの補修を、出来るだけウッドデッキの設置は避けてほしい。

最初からあるような感じで『ウッドデッキの設置については』書くのは避けて頂き、『その他必要な設置物の設置については』のような形で水に関連する施設物、或いはそれを隠すためのものについて書いた方が良い。

□ 左近の桜

有識者の中でも最高の研究者の方が懸念を持っていられることに対してもう少し時間を取って、どこに再植するかの議論をすべきである。

偕楽園内に無理して植える必要は全く無くて、それこそその他の都市公園に移して自由に誰でも朝晩見られるようにしたら返って効果があるのではないか。
